2026 年 11 月 版

Adobe InDesign ver.22 → ver.8 機能一覧

2026 年 11 月リリース（ver.22）

- AI アシスタント（beta）でプロンプトを成果につなげる
- フォントをより簡単に閲覧、整理
- ページパネルから書き出し
- フレックスコンテナでテキストフレームのサイズを自動的に調整
- スクリプトパネルでの検索でスクリプトを素早く見つける
- Windows ARM 上で InDesign をネイティブ実行

2025 年 10 月以降に追加された機能（ver21.xx）

- UTF-8 に対応したデータ結合
- テキストを調整
- AI で画像を説明し代替テキストを作成
- EPUB 書き出し時にインデックスのアクセシビリティサポート

Windows 10（21H2）、Windows 11（24H2、25H2、26H1）	
Processor	Intel マルチコアプロセッサー（64 ビット対応必須）または AMD Athlon® 64 プロセッサー Advanced Vector Extensions 2（AVX2）サポートが必要です
RAM	8 GB 以上（16GB 以上を推奨）
HD	3.6 GB 以上の空き容量のあるハードディスク（インストール時には追加の空き容量が必要）SSD を推奨

※ 20.x バージョンを Intel® 第 3 世代のプロセッサーまたはそれ以前（および古い AMD プロセッサー）にインストールすることはできません。

Mac	
macOS version 14.x、macOS version 15.x、macOS version 26.x	
Processor	Intel マルチコアプロセッサーまたは ARM ベースの Apple Silicon プロセッサー、SSE4.2 以上 Advanced Vector Extensions 2（AVX2）サポートが必要
RAM	8 GB 以上（16GB 以上を推奨）
HD	4.5GB 以上の空き容量のあるハードディスク（インストール時には追加の空き容量が必要）

※ GPU パフォーマンスを最適化するには、Intel ベースの Mac に 1024 MB 以上の VRAM（2 GB 以上を推奨）があり、コンピューターで Metal がサポートされている必要があります。

全ての新機能および機能強化についてはこちら参考ください

技術要件の詳細はこちらも参考ください

2025 年 10 月リリース（ver.21）

- フレックスレイアウト
- 数式にスタイルと書式を適用
- クラウドドキュメントをシームレスに管理および共有
- Adobe Express でテンプレートを簡単に参照および編集
- Windows の GPU パフォーマンスでスムーズなレンダリング、HiDPI ディスプレイでの応答性が向上

2024 年 10 月リリース（ver.20）

- MathML を使用してドキュメントに数式を追加
- シンプルなテキストプロンプトでの画像の生成
- InDesign ドキュメントを Adobe Express に書き出し
- コンテキストタスクバーによる集中的な創作
- HTML5 パッケージへの書き出し
- 境界線を越えて画像を拡張することで複雑な編集を自動化
- 「スプレッドを隠す」の機能強化

2023 年 10 月リリース（ver.19）

- JPEG、PNG の書き出しでのファイル名の接尾辞
- スプレッドを隠す
- 公開ドキュメント内のテキストを検索して分析をカスタマイズする
- 複数のテキストフレームのスタイルの自動設定、スタイルパックの作成および管理（英語（国際）、英語（北米）、およびドイツ語のロケールでのみ使用できます。）
- UXP を使用した InDesign プラグインの作成

2022 年 10 月リリース（ver.18）

- Illustrator と InDesign の間でテキストをコピー
- ドキュメントのプレビュー
- UXP スクリプティング
- ページの選択後に複製
- 新しいグラフィックフォーマットのサポート

2021 年 10 月リリース（ver.17）

- Adobe Capture の拡張機能
- ユーザーインターフェイスの拡大・縮小
- 包含的な用語
- キーボードショートカットの強化

2020 年 10 月リリース（ver.16）

- コンテンツレビューの強化
- ドキュメント内のカラーの検索
- 被写体の検出とテキストの回り込み
- RGB 変換せずに HSB 値を使用
- メディアパネルでのナビゲーションポイントの使用
- 破損したドキュメントを検出して復元

2019 年 11 月リリース（ver.15）

- レビュー用に共有
- Adobe Fonts の自動アクティベーション
- 段間罫線
- SVG の読み込み
- バリアブルフォント
- 逆方向のスペルチェック
- 似た画像を検索
- Adobe アセットリンク（AEM）

2018 年 10 月リリース（ver.14）

- PDF からのコメントの取り込み
- フォントメニューが進化
- プロパティパネル
- 段落スタイル間の間隔指定
- 内容を自動認識に応じて合わせる
- 表の脚注
- カラーフォントに対応
- 書き出しの際のドキュメント名の使用チェック

参考）mac OS 27（**Golden Gate**）/ mac OS 26（**Tahoe**）/ mac OS 15（**Sequoia**）/ mac OS 14（**Sonoma**）/ mac OS 13（**Ventura**）/ mac OS 12（**Monterey**）
Windows 11「**25H2**」（2025/9/30）、Windows 11「**24H2**」（2024/10/01）、Windows 11「**23H2**」（2023/10/31）、Windows 11「**22H2**」（2022/9/20）、Windows 11「**21H2**」（2021/10/05）、Windows 11「**22H2**」（2022/9/20）
Windows 10「**21H1**」（2021/5/18）、Windows 10「**21H2**」（2021/11/16）、Windows 10「**22H2**」（2022/10/18）、Windows 10「**22H2**」（2022/10/18）

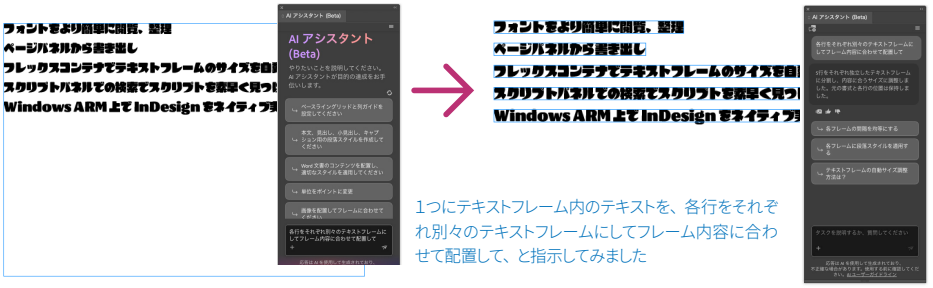
この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe InDesign 2026 年 11 月リリース（ver.22）

AI アシスタント（beta）

AI アシスタント（beta）を活用して、状況に応じたサポートを受けたり、対話を通じて複数のステップからなる操作を実行したりできます。

デザイン作業を続けながら、アシスタントがコンテンツ、レイアウト、オブジェクトの編集を効率的に手伝ってくれます。



1つにテキストフレーム内のテキストを、各行をそれぞれ別々のテキストフレームにしてフレーム内容に合わせて配置して、と指示してみました



PDFファイルをInDesignに配置したい場合の例として、既存の1ページ目にPDFの1ページを配置し、2ページ以降はPDFと同じ枚数のページをInDesignに追加し、PDFの各ページを1ページずつそのまま配置、と指示。配置したい参照ファイルは＋からファイルを指定します。

フォントをより簡単に閲覧、整理

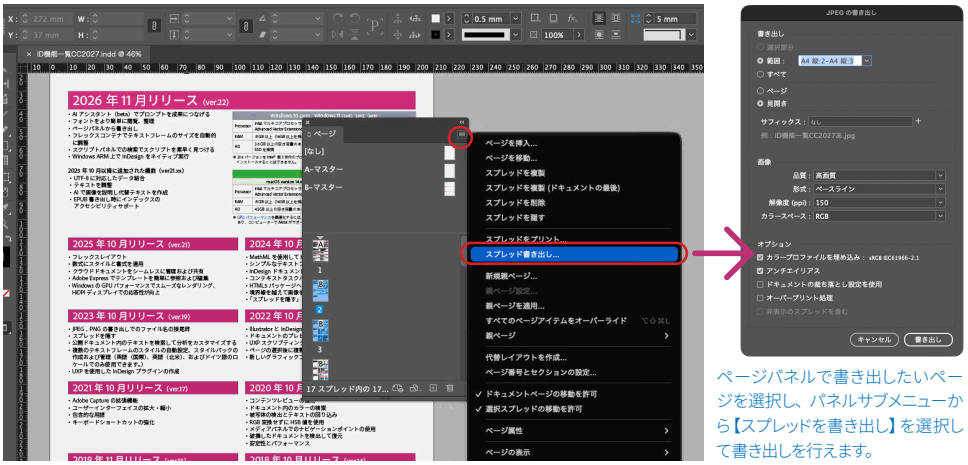
頻繁に使用するフォントをカスタムフォントライブラリにグループ化し、プロジェクトを横断して利用できます。



文字パネルに【ライブラリ】が追加されました。【ライブラリ】をクリックして切り替えて「＋新規」からオリジナルのフォントライブラリを作成しフォントをライブラリに追加します。使用するときは、パネルから【ライブラリ】に切り替えることで追加したフォントのリストだけを表示させられます。プロジェクトごとにライブラリを作成しておけば、素早く目的のフォントを選択できるようになります。

ページパネルから書き出し

ページパネルをから、選択したページ、またはドキュメント全体を書き出せるようになりました。



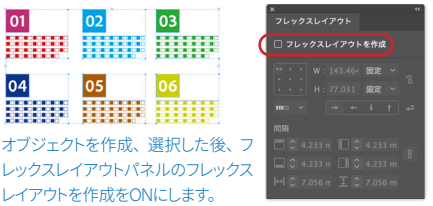
ページパネルで書き出したいページを選択し、パネルサブメニューから【スプレッドを書き出し】を選択して書き出しを行えます。

Adobe InDesign 2025 年 10 月リリース (ver.21)

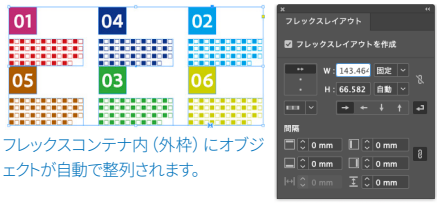
フレックスレイアウト

フレックスレイアウトは、コンテンツの変更に応じて自動的に適応するコンテナを作成できる機能です。

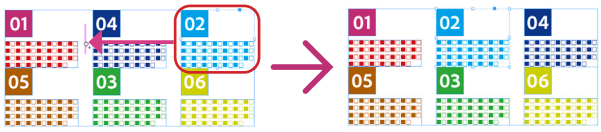
コンテナ内の項目は、方向、間隔、パディング、整列を使用して配置されます。 コンテンツの追加、削除、サイズ変更時にレイアウトが自動調整されるため、手動での調整が不要になります。



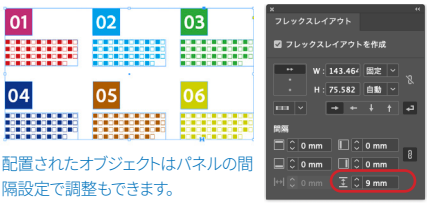
オブジェクトを作成、選択した後、フレックスレイアウトパネルのフレックスレイアウトを作成をONにします。



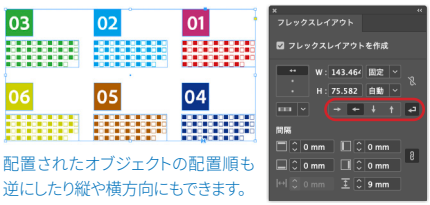
フレックスコンテナ内（外枠）にオブジェクトが自動で整列されます。



オブジェクトの配置を調整することもできます。
フレックスコンテナ内のオブジェクトをドラッグ&ドロップして配置をします。



配置されたオブジェクトはパネルの間隔設定で調整もできます。

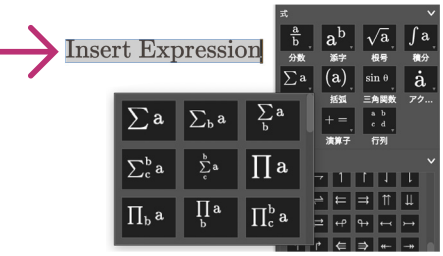


配置されたオブジェクトの配置順も逆にしたり縦や横方向にもできます。

数式にスタイルと書式を適用

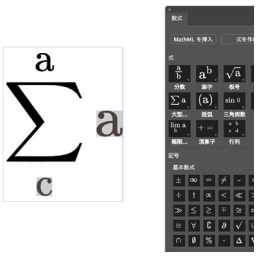
フォントスタイル、サイズ、色を数式の一部または全体を簡単に書式設定できます。また、Microsoft Word から編集可能な数式を貼り付けることができます。





数式パネルを表示します。
【MathMLを挿入】から数式を作成できますが、【式を作成】から直感的に数式を作成できます。

【式を作成】をクリックすると”Insert Expression”というテキストフレームが作成されます。
そのままパネルから使用したい数式を選びます。



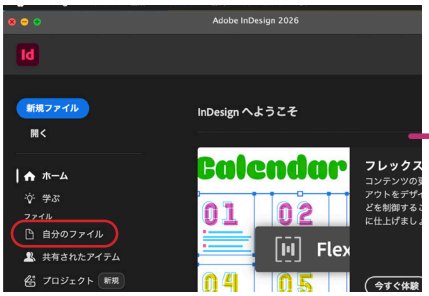
グレーにハイライトされた箇所に文字を入力、パネル内の記号などに変更できます。

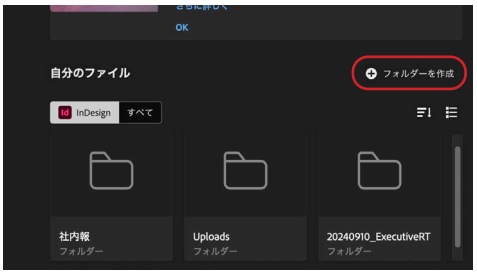


数式パネルの下側のメニューからスタイル、サイズ、色を設定できます。

クラウドドキュメントを管理、共有

ホーム画面からの迅速な共有、オフラインアクセス用の 7 日間同期、アセットを一括して整理および共有できる共同作業プロジェクトを通じて、よりスムーズなファイル管理を体験できます。





ホーム画面から【自分のファイル】を選択します。
右上の【フォルダーを作成】から管理したいフォルダをクラウドストレージ上に作成します。
InDesignドキュメントを保存する際に保存ダイアログの【Creatice Cloudに保存】から作成したフォルダーを選択して保存します。





クラウドに保存されたドキュメントを共有したり、名前変更、コピーなど作成することができます。

Adobe InDesign 2024 年 10 月リリース (ver.20)

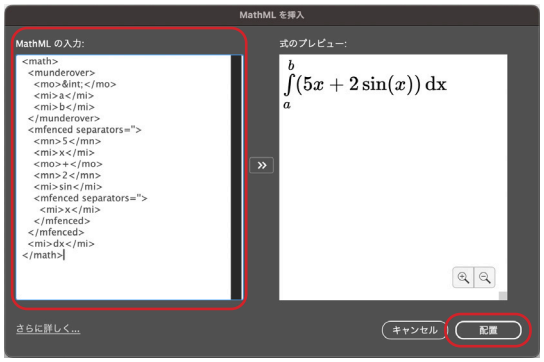
MathML を使用してドキュメントに数式を追加

MathML を SVG として追加し、InDesign 内で直接式を編集します。ドキュメントデザインの残りの部分に合わせてフォントサイズとカラーを調整して、式のスタイルをカスタマイズします。



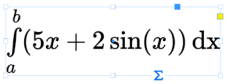
[ウィンドウ] メニューから [数式] を選択して数式パネルを表示します。

作成される数式のフォントサイズ、カラーを指定して" MathMLを挿入" をクリックします。



[MathMLの入力：] の枠内に数式を記述するための XML ベースのマークアップ言語で数式を記述します。右側の [式のプレビュー] で確認し配置をします。

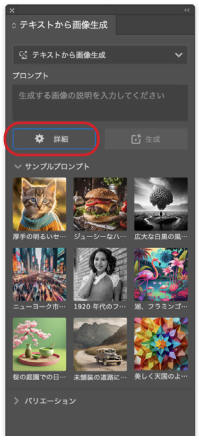
MathML を挿入して数式を作成について
https://helpx.adobe.com/jp/indesign/using/math-expressions.html



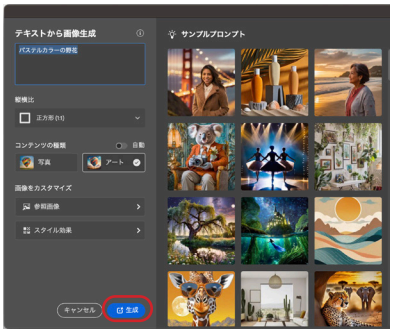
※配置された数式の線の太さや括弧などを分解して編集することはできません。

シンプルなテキストプロンプトでの画像の生成

テキストから画像生成で、シンプルなテキストプロンプトを使用して画像を生成します。サンプルプロンプトにアクセスし、参照画像を追加して、詳細設定ダイアログボックスからスタイル効果を適用します。



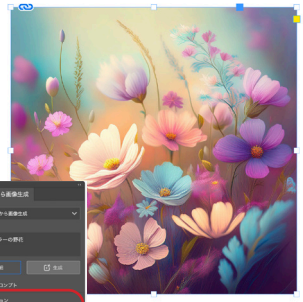
[ウィンドウ] メニューから [テキストから画像生成] を選択してテキストから画像生成パネルを表示します。

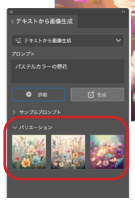


[詳細オプション] をクリックすると、より多くのサンプルプロンプトを表示したり、参照画像を追加したり、スタイル効果を選択したりできるようになりました。

※生成される画像の格納場所
Windows：C:\Users\<username>\Documents\InDesign GenAI Assets
macOS：/Users/username/Documents/InDesign GenAI Assets

配置された画像はリンクパネルで確認できます。パッケージを実行すれば生成画像を収集できます。

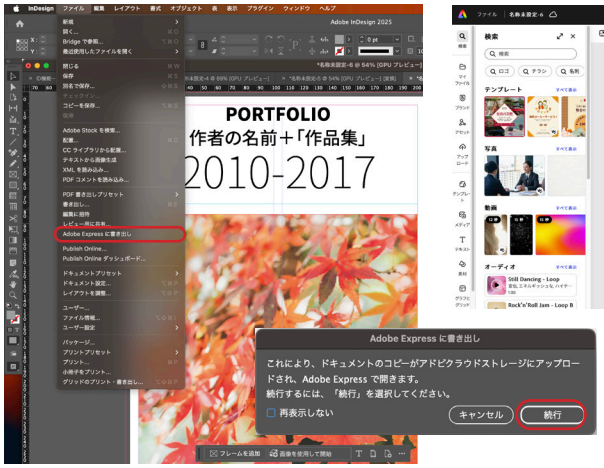




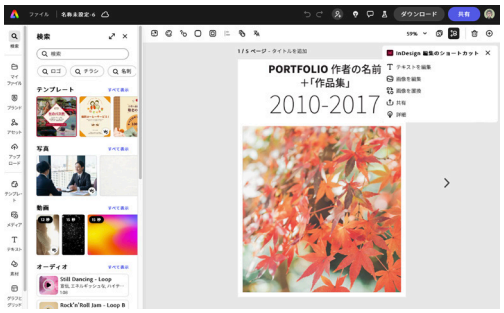
3つに画像が生成されます。バリエーションで切り替えて使用します。

Adobe Express に書き出し

ワンクリックで InDesign ドキュメントを書き出して Adobe Express で開きます。共同作業者と共有する前に、ブランドの一貫性を保つために要素を編集またはロックすることができます。



[ファイル] メニューから [Adobe Expressに書き出し] を選択します。書き出しのダイアログが表示され現在開いているドキュメントをクラウドストレージにアップロードする確認がるので [続行] をクリックします。



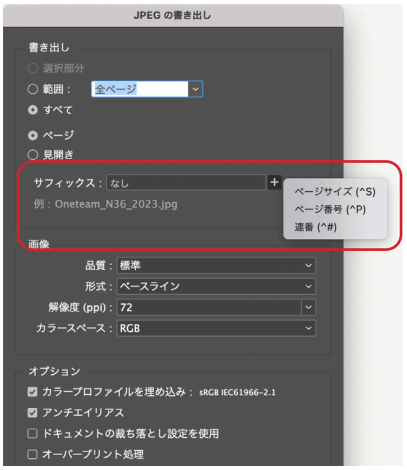
ブラウザが立ち上がり、Adobe Express でドキュメントが表示されます。
ドキュメントはテキストや画像の編集以外にも、ビデオやアニメーション、音楽などを組み合わせられます。
編集後は、Adobe Express からソーシャルメディアプラットフォームにドキュメントを共有できます。

JPEG、PNG の書き出しでのファイル名の接尾辞

JPEG および PNG の書き出しで、増分番号、ページ番号、ページサイズなどの動的文字をファイル名の接尾辞として追加すると、システム内でそれらを区別し、簡単にフィルタリングできます。



[ファイル] メニューから [書き出し] を実行します。[書き出し] ダイアログが表示されるので、[形式] からJPEGまたはPNGを選択し [保存] ボタンをクリックします。

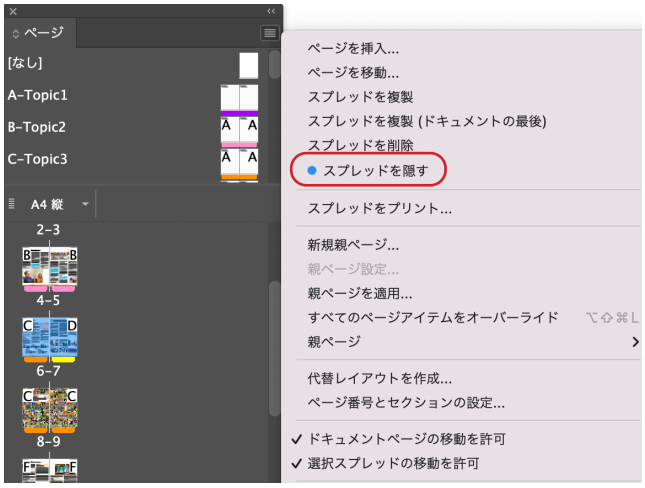


【JPEGの書き出し】パネルの【サフィックス】から、ページサイズ、ページ番号、連番を選び書き出すことで、カスタマイズされた名前などのファイル名の接尾辞を追加します。

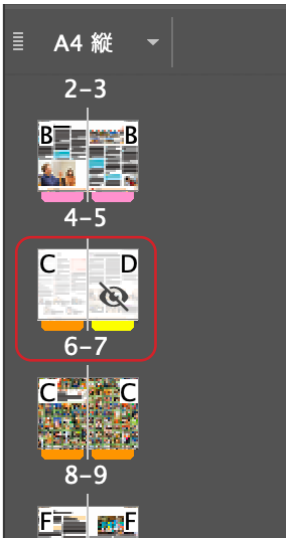
スプレッドを隠す

選択したスプレッドを非表示にしてプレゼンテーションモードから除外し、PNG、JPEG、PDF（印刷）、または PDF（インタラクティブ）形式などのオプションを書き出します。

非表示のスプレッドは、プレゼンテーションモード、またはドキュメントを PNG、JPEG、PDF（印刷）、または PDF（インタラクティブ）形式に書き出す場合には表示されません。

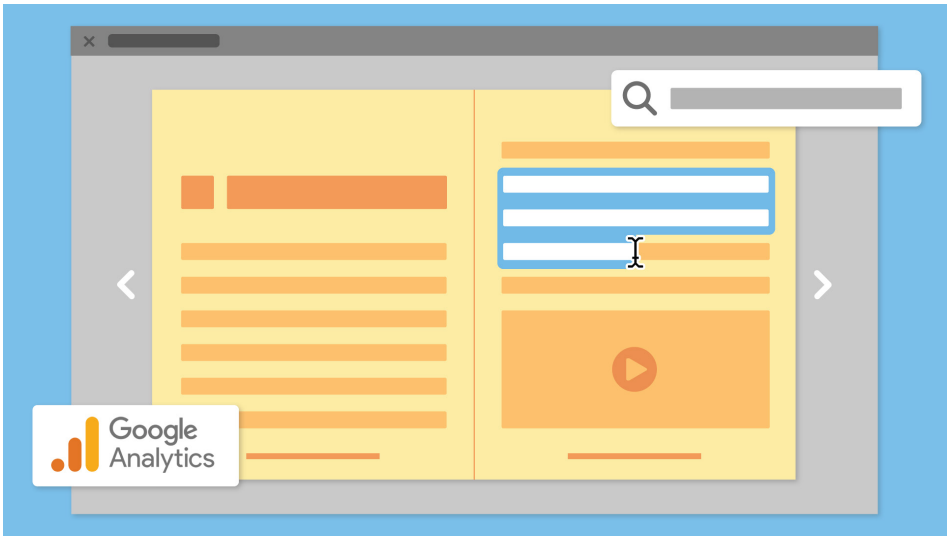


【ページ】パネル内で、非表示にしたいスプレッド、またはページを選択し、パネルサブメニューから【スプレッドを隠す】を選択します。



公開ドキュメント内のテキストを検索して分析をカスタマイズ

ドキュメントを公開するときに Google Measurement ID を統合し、トラフィックとエンゲージメントを測定します。任意のデバイスから、公開されたドキュメントで特定のテキストを検索できるようになりました。タッチデバイスからはテキストの検索のみができますが、デスクトップとラップトップからはテキストを検索してコピーすることができます。

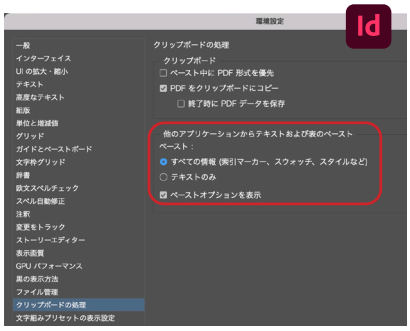


Adobe InDesign 2022 年 10 月リリース (ver.18)

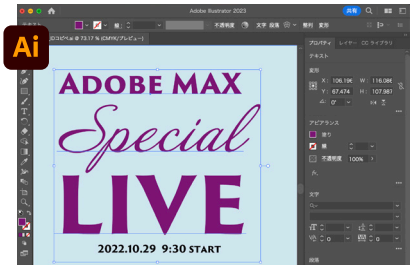
Illustrator と InDesign の間でテキストをコピー

Illustrator と InDesign 間で、書式や適用された効果を維持したまま、テキストを効率的にコピーペーストできるようになりました。

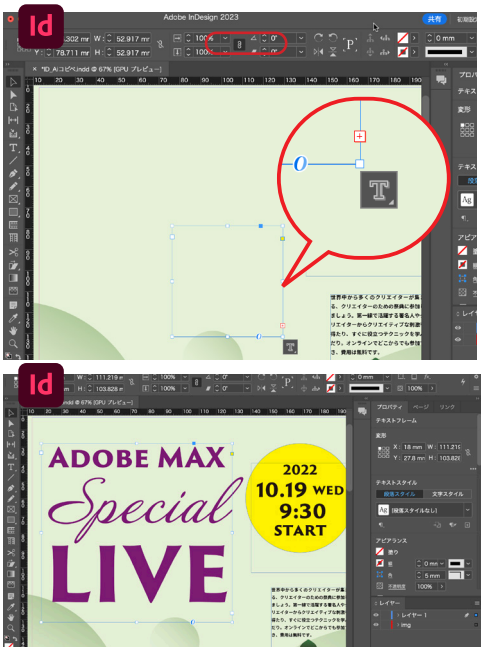
InDesign 初期設定では、プレーンなテキストとしてペーストされる設定となっているので、環境設定→【クリップボードの処理】→【他のアプリケーションからテキストおよび表のペース】で、他のアプリケーションからのテキストの処理をどうするかチェックする必要があります。



【すべての情報】にチェックすることで、Illustratorドキュメントからテキスト情報をもった状態でテキストをペーストできます。



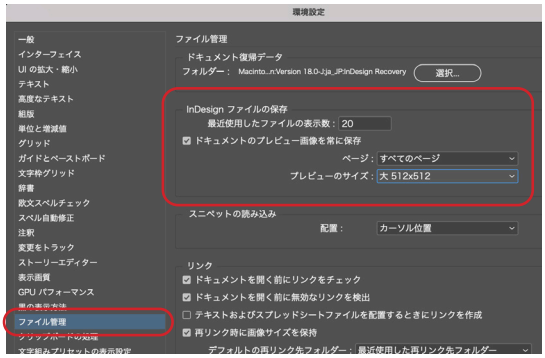
Illustratorで作成したテキストを選択してコピーします。



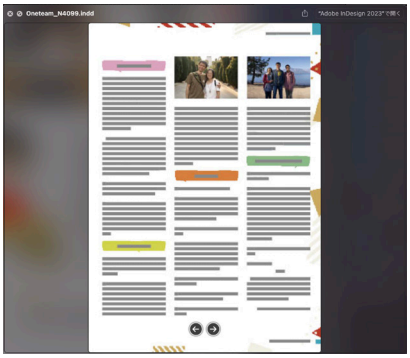
ペーストをすると T のアイコンが表示されるので選択します。
テキストオーバーフローの表示であれば、フレームサイズを調整して表示させます。

ドキュメントのプレビュー

InDesign ドキュメント (.indd) のプレビューを表示することで、ドキュメントを開かずに外観を手軽に確認できるようになりました。プレビューのページ数やサイズの設定を調整することもできます。



InDesign環境設定→【ファイル管理】→【InDesignファイルの保存】で、プレビューで表示するページ数やサイズを確認して保存にチェックします。



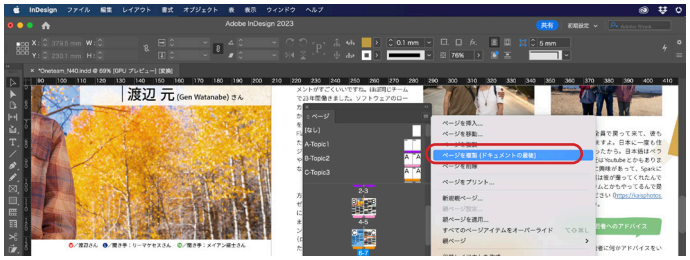
Finderのプレビューで確認できます。



InDesignドキュメントを保存する際に【ドキュメントのプレビュー画像を常に保存】にチェックします。

ページの選択後に複製

InDesign でページやスプレッドを複製して、選択範囲の直後に配置できるようになりました。複製したページやスプレッドをドキュメントの最後に配置することもできます。



新しいグラフィックフォーマットのサポート

精度を損なうことなく、HEIC、HEIF、WEBP、JP2K ファイルをネイティブ形式で読み込めるようになりました。

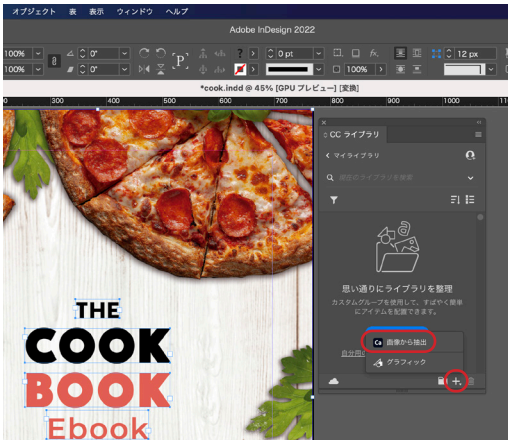


Adobe InDesign 2021 年 10 月リリース (ver.17)

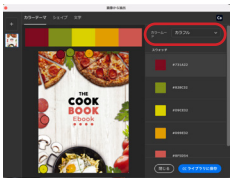
Adobe Capture の拡張機能

InDesign で Adobe Capture の機能をご利用いただけます。

新しい Capture 拡張機能を使用して、任意の画像からフォント、カラーパレットおよびシェイプをキャプチャし、後で保存できます。



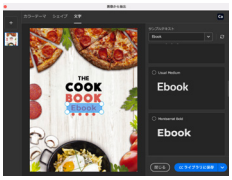
対象となるオブジェクトを選択し、CCライブラリパネルの右下にある＋をクリック → 画像から抽出 を選ぶと【画像から抽出】ダイアログが表示されます。カラーテーマ、シェイプ、文字のメニューを切り替えながら、必要な情報を抽出することができます。



カラーテーマ
選択しているオブジェクトからカラーを抽出してスウォッチに登録することができます。【カラームード】から抽出するカラーの調子を切り替えることもできます。



シェイプ
選択しているオブジェクトを白黒の線画にトレースできます。結果はCCライブラリに保存されます。

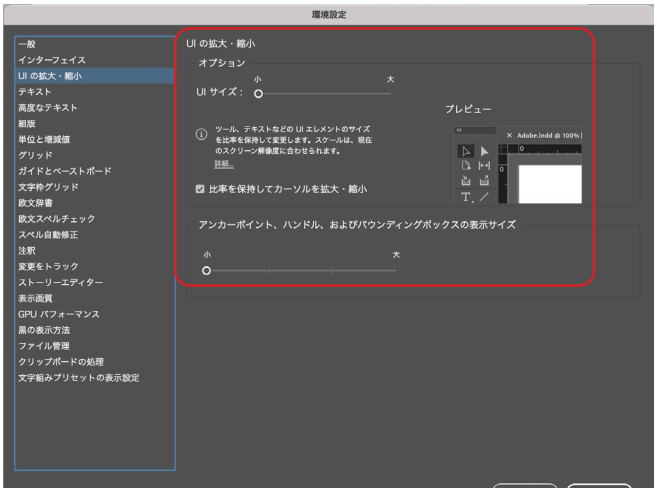


文字
不明なフォント情報を、ダイアログ内で選択しAdobe Fontsから類似フォントを検索することができます。

ユーザーインターフェイスの拡大・縮小

高解像度のモニターで快適に閲覧できるように、InDesign UI のサイズをディスプレイのニーズに合わせて拡大・縮小できます。

環境設定の【UI の拡大・縮小】にて調整できます。サイズ変更は設定後に InDesign を再起動することで適用できます。



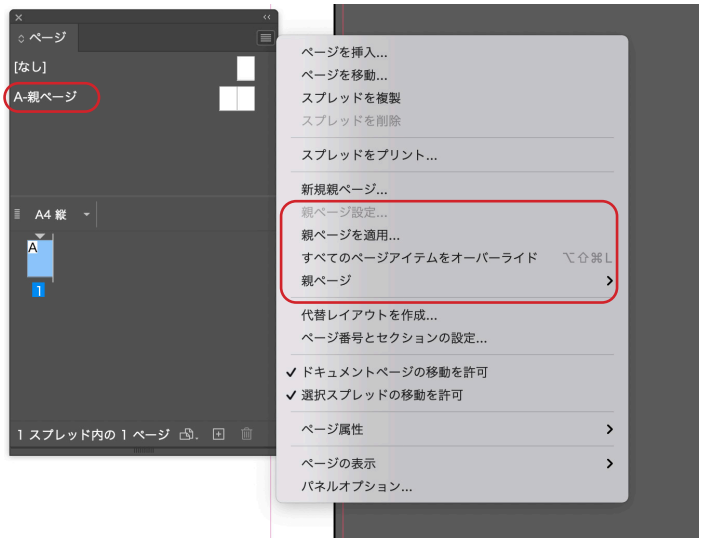
スライダーに表示される目盛りの数は、画面の解像度によって変わります。画面の解像度が高くなるほど、表示される目盛りの数が多くなります。



アンカーポイント、方向ハンドル、バウンディングボックスの表示サイズの調整もできます。初期設定はで小（上図）ですが、サイズを大（下図）とすることで、リンクやハンドルマークなどが大きく表示されるようになります。

包含的な用語

ダイバーシティ＆インクルージョン（多様性と包摂）というアドビのコアバリューに対応するために、マスターページという用語は親ページに置き換えられました。



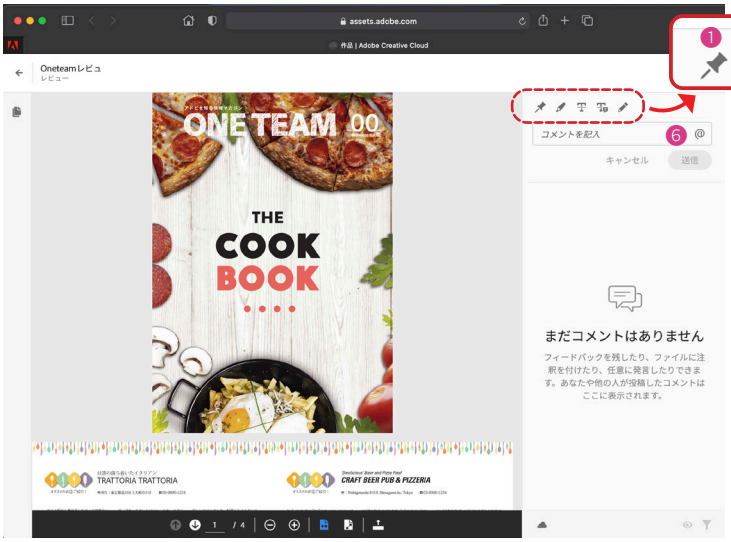
アドビの価値観である「ダイバーシティ&インクルージョン」を実現するために、非包括的な用語を置き換えました。InDesign 2022（バージョン 17.0）以降では、ページレイアウト、デザイン、およびスタイルを適用するために、親ページ（以前はマスターページと呼ばれていました）を参照します。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

コンテンツレビューの強化

テキスト編集の強化機能で、レビュー用に共有（2019 年リリース、詳しくは次ページ参照）は、デザイナーとチームメンバーにとって、よりシームレスでクリエイティブなレビューを行えるように進化しました。

テキストのハイライト、テキストの挿入、テキストの打ち消し線などの新しいレビューツールを使用できます。



ブラウザーでレビューを行う際のコメントツールが強化されました。

❶ピンツール
❷テキストをハイライト表示
❸テキストに打ち消し線
❹テキストを置換
❺描画ツール
❻@メンション

ドキュメント内のカラーの検索

ドキュメントで使用されているカラーをすばやく検索できます。

1 つまたは複数の InDesign ドキュメント内のすべてのカラーのインスタンスをすぐに検索したり、未使用のカラーを削除したり、別のカラーに置き換えたりすることができます。

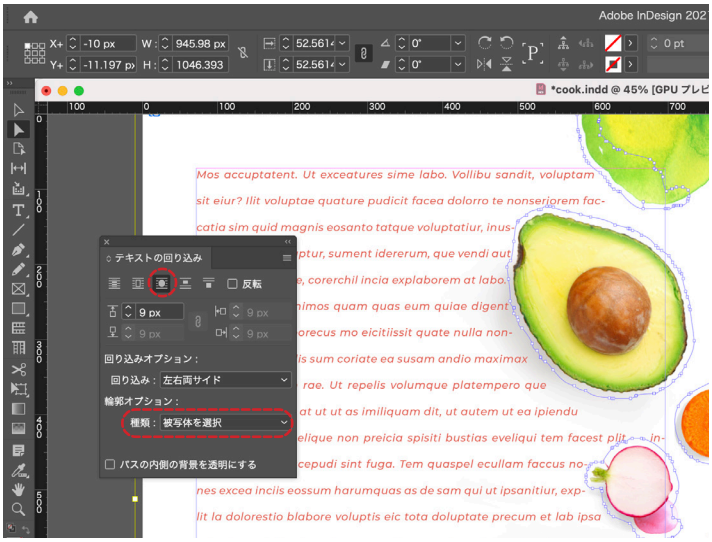


スウォッチパネルで置換したいカラーを選択、スウォッチパネルのサブメニューから【このカラーを検索...】で置換したいカラーをっ選択して置換をおこないます。また【検索と置換】ダイアログ →【カラータブ】ではスウォッチパネルで使用されていないカラーを検索することもできます。

被写体の検出とテキストの回り込み

画像内で被写体を検出して、その周囲にテキストを回り込ませる処理をすべてInDesignで実行できます。

アルファチャンネルや Photoshop のパスを使用することなしに、被写体の輪郭の周りに直接テキストを回り込ませることができます。



Photoshopのパスや、アルファチャンネルを使用しなくても、被写体の輪郭の周りをAdobe Senseiを使用してが認識、テキストを回り込ませることができます。

被写体の周りにはアンカーポイントが表示されますので、細かな調整したい場合には、アンカーポイントをダイレクト選択ツールを使用して調整してください。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe InDesign 2019 年 11 月リリース (ver.15)

レビュー用に共有 (20 年 6 月)

InDesign から離れることなく、レビュープロセス全体を管理できるようになりました。

「レビュー用に共有」を選択するだけでレビュープロセスが開始され、レビューはブラウザ経由でおこなえます。

レビューアーからのフィードバックはアプリに直接戻され、新しいレビューパネルに表示されるため、フィードバックの確認、返信、解決をすべて InDesign 内で完結できます。この新しいワークフローは作業と時間の無駄を省き、デザイナーは制作に集中できるようになります。

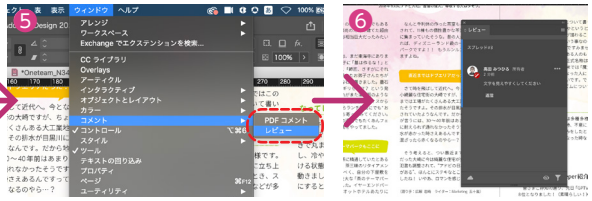


❶❷メニュー バーの「共有」ボタンをクリックして「レビュー用に共有」を選択してレビューを作成します。

❸依頼したいレビューメンバーを追加します。
メンバーにはメールでレビュー依頼が届きます。



❹メールに記載されているリンクをクリックし、ブラウザ上でレビューを行います。



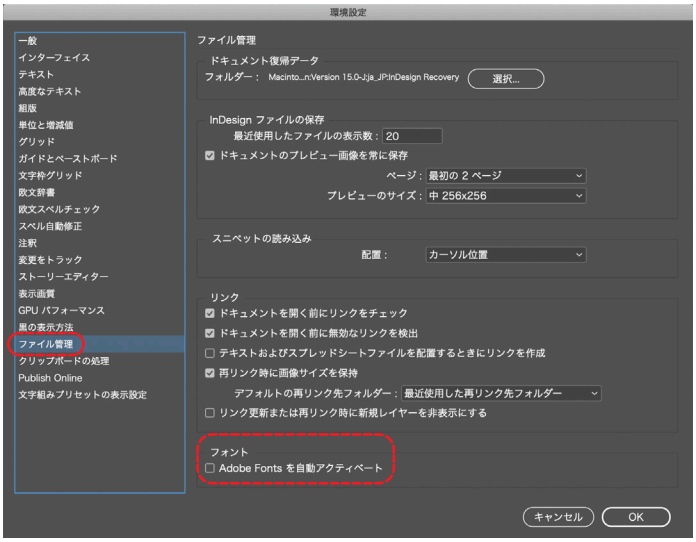
❺❻制作側では、【ウィンドウ】メニューから【コメント】→【レビュー】でレビューパネルを開きレビューコメントを確認することができます。

Adobe Fonts の自動アクティベト (20 年 6 月)

InDesign は、Adobe Fonts を使用して、環境に無いフォントを自動的に検出してアクティベートするようになりました。

また、バックグラウンドタスクパネルから、環境に無いフォントのステータスを確認することもできます。

デフォルトでは、Adobe Fonts を自動アクティベートは InDesign で無効になっています。環境設定ダイアログから有効にできます。



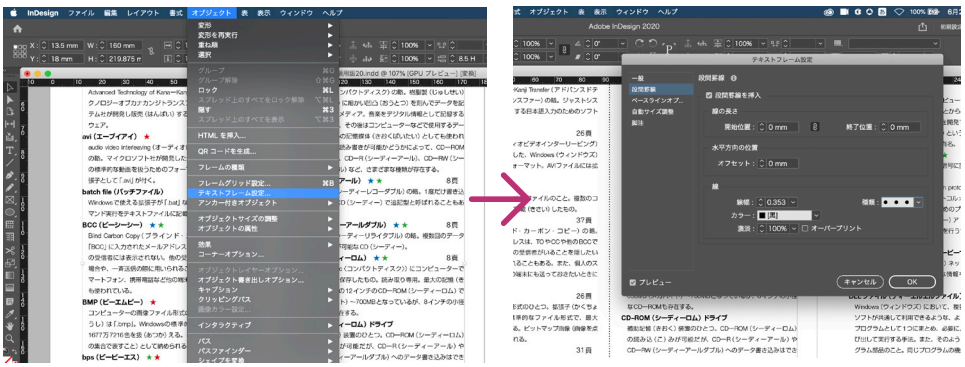
【環境設定】の【ファイル管理】内にある【フォント】から［Adobe Fonts を自動アクティベート］をチェックできます。

［Adobe Fontsを自動アクティベート］をオンにすることで、ドキュメントを開いたときに、環境にないフォントが使用されているというメッセージを表示させることなく、自動で Adobe Fontsのフォントをアクティベートしてドキュメントを開くことができます。

段間罫線

複数列を含むドキュメントをデザインすることが多い場合は、新しい段間罫線の機能を使用すると、複数列テキストフレーム内の列間の行を追加して、制御することができます。

段間罫線を追加すると、列のスタイルを作成したり、デザインエレメントを追加したりすることができます。デフォルトでは、一番上の行の上端から一番下の行の下端で段間罫線を引くことができます。

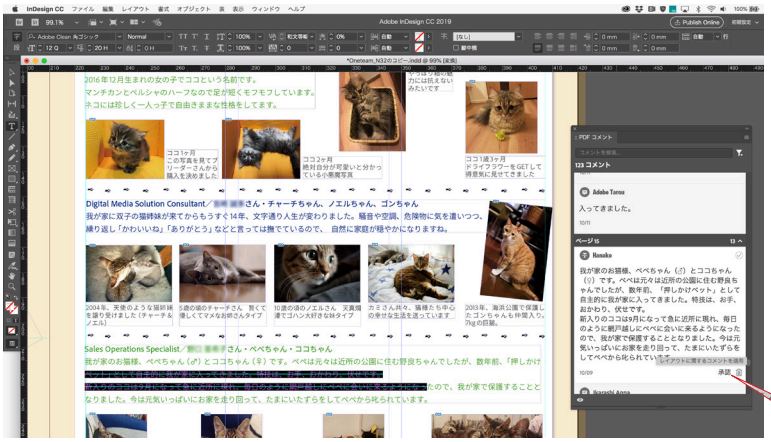


段落テキストフレームを選択して【オブジェクト】メニュー →【テキストフレーム設定】を選択し、【テキストフレーム設定】ダイアログから【段落罫線】から、線幅や線の種類、カラーなどを設定することができます。

Adobe InDesign 2018 年 10 月リリース (ver.14)

PDF からのコメントの取り込み

PDF からコメントを読み込んで、InDesign 上で注釈内容の確認および編集をすばやく行うことができます。

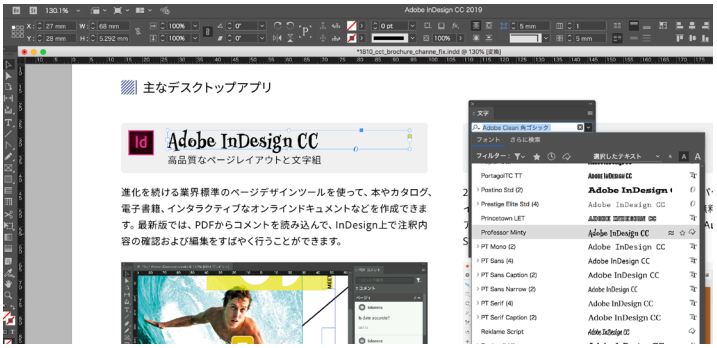


【承認】をクリックすることで、注釈の内容をドキュメントに反映することができます。

InDesign（ver.14）から書き出されたPDFに、Acrobatで注釈をつけたデータを【PDFコメント】パネルで読み込めます。読みこんだ注釈はドキュメント上でも確認できるようになります。

フォントメニューが進化

最適なフォントを選びやすく、フォントメニューが進化しました。
テキストを選択し、フォントメニューからフォントをマウスオーバーするだけで、フォントプレビューができます。
また、プレビュー内容は複数のサンプルテキストオプションから選択することができるようになりました。



テキストを選択して【文字】パネルからメニューをスクロールするだけで、選択されてテキストのプレビューを確認することができます。

プレビューさせたいテキストの種類を変更できます。



【分類毎にフォントをフィルター】、【お気に入りのフォントを表示】、【最近追加したフォントを表示】、【アクティベートしたフォントを表示】からフォントを絞り込むこともできます。

プロパティパネル

プロパティパネルでは、現在のタスクやワークフローのコンテキストに応じた設定およびコントロールを表示できます。

選択したオブジェクトなどによって動的に表示内容が変化しますので、今までのようにパネルを複数表示しながら作業しなくてもよいので、デスクトップを広く活用できるようになります。

プロパティパネルは、デフォルトでは初期設定ワークスペースで使用できます。ウィンドウ／プロパティから有効にすることもできます。



何も選択していないとき　テキスト選択　テキストフレーム選択　画像選択

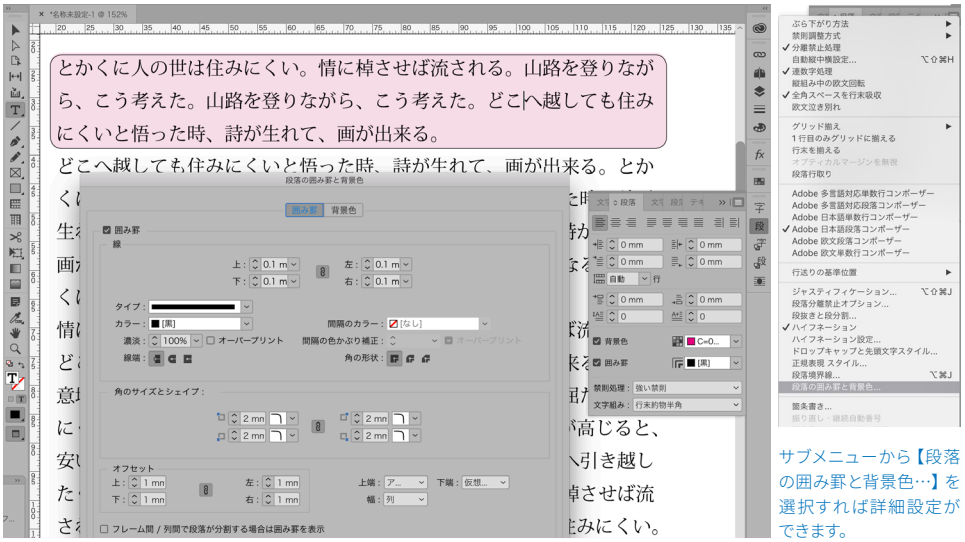
プロパティパネルは、作業に合わせた形で内容を変化させ、作業を効率的におこなえます。

また、より詳細に設定もおこなえうように、【その他のオプション】ボタンも用意されています。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

段落囲み罫

段落に対して囲み罫を作成し、その囲み線の太さ、位置、角丸などのシェイプ、背景色の設定がおこなえるようになりました。

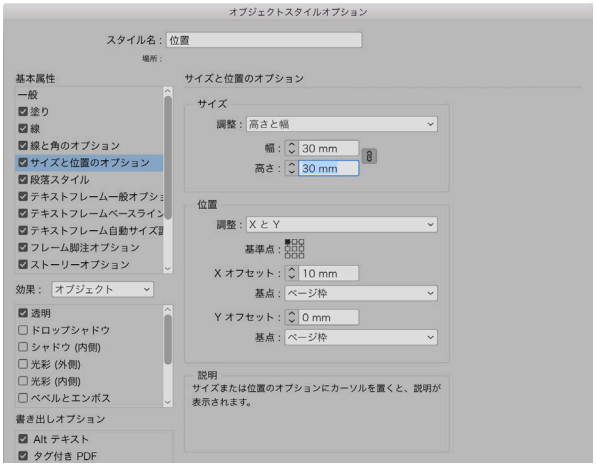


サブメニューから【段落の囲み罫と背景色…】を選択すれば詳細設定ができます。

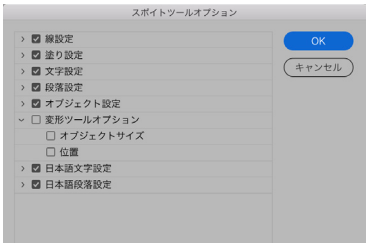
オブジェクトスタイルの強化

「オブジェクトスタイル」にオブジェクトのサイズや位置を設定できる属性が追加されました。

既存の塗りや線幅に加え、サイズや位置の情報をオブジェクトに情報を持たせられるので、マスターページに配置するほどではないが、特定のページではオブジェクトのい位置やサイズを同じ設定で設定にしたい場合などに便利な機能です。



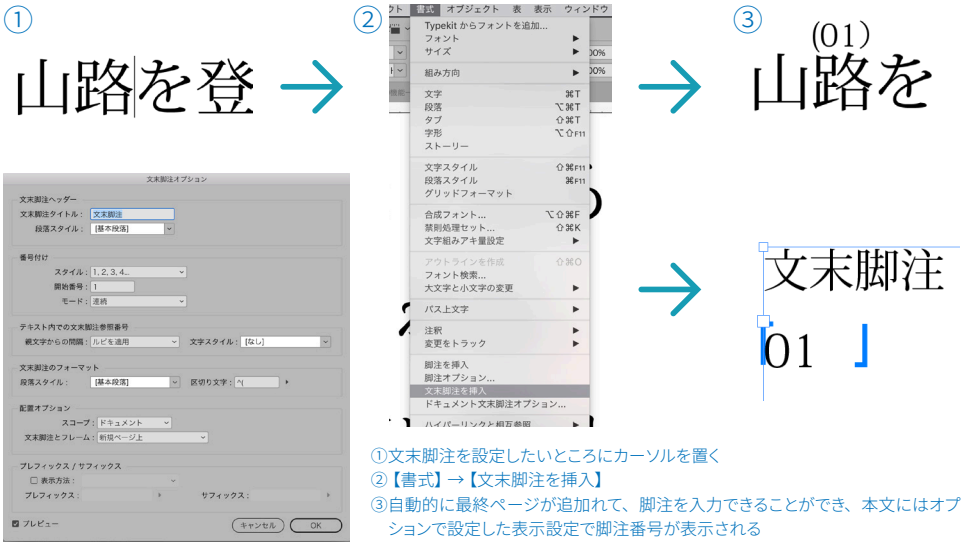
サイズや位置の設定は、”幅のみ”、”Yのみ” など選択して設定ができようになっているので、配置するオブジェクトの内容によって使い分けができます。



スポイトツールにより、特定のオブジェクトのサイズや位置を他のオブジェクトに適用することもできます。スポイトツールをダブルクリックし、「変形ツールオプション」（デフォルトでは無効）を選択します。これで、オブジェクトをクリックすると、スポイトツールでオブジェクトのサイズと位置が取得され、任意の他のオブジェクトに適用できるようになります。

文末脚注

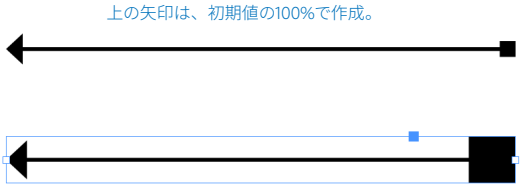
文末脚注の機能が追加されました。



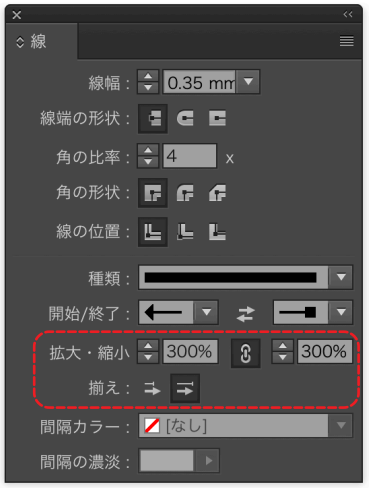
①文末脚注を設定したいところにカーソルを置く
②【書式】→【文末脚注を挿入】
③自動的に最終ページが追加れて、脚注を入力できることができ、本文にはオプションで設定した表示設定で脚注番号が表示される

矢印のサイズ変更コントロール

矢印の拡大・縮小がサポートされています。矢印の始点、終点の線幅をそれぞれ別々に拡大および縮小できるようになり、線パネルのコントロールを使用してワンクリックで切り替えることができます。



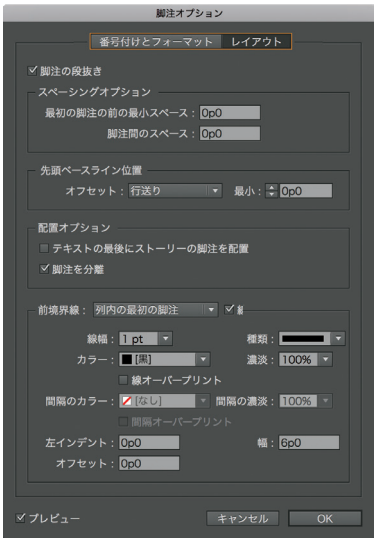
下の矢印は、線パネル内にある拡大・縮小の設定値を300%にしたもの。
また、線パネル内の拡大・縮小の下にある”揃え”をチェックする事で、矢印の先端の位置揃えを変更することができます。



新しい脚注機能（段抜き注釈）

これまで1つの段の下部にしか設定できなかった脚注が、複数の段をまたぐ段抜きが可能になりました。また、OpenType の機能が拡張され、OpenType のプロパティをテキストフレーム内の文字に一括で適用することができます。

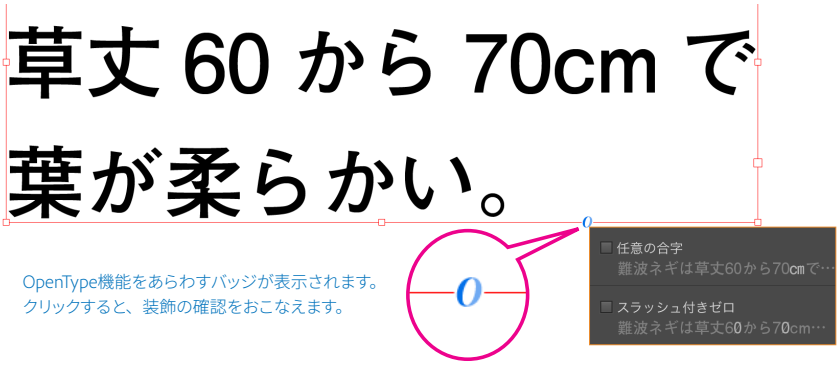




OpenType の機能強化

テキストを選択したときに、右下に異字体、分数、上付き序数表記、合字が表記され、より素早く字体の切り替えがおこなえます。

また、テキストフレーム右下に OpenType 機能を表すアイコンが表示され（テキスト選択時にも表示）、テキストに適用できる装飾を確認、適用することもできるようになりました。



OpenType機能をあらわすバッジが表示されます。
クリックすると、装飾の確認をおこなえます。



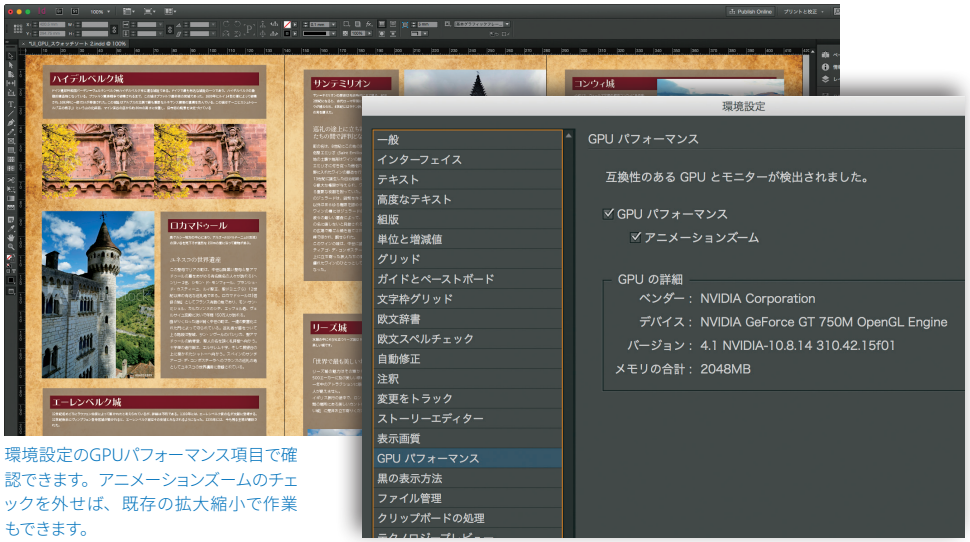
テキストを選択すると、右下に合字が表記され切り替えができます。

Adobe InDesign 2016 年 6 月リリース (ver.11)

パフォーマンスの向上

InDesign の Mercury Performance System が機能改善され、GPU のパフォーマンスが向上。

ズームやスクロール、改ページの処理速度が従来と比べて 2 倍以上高速になりました。(Mac のみ)



環境設定のGPUパフォーマンス項目で確認できます。アニメーションズームのチェックを外せば、既存の拡大縮小で作業もできます。

目に優しいユーザーインターフェイス

操作中のストレスを少しでも減らし、クリエイティブな作業に集中していただけるよう、ユーザーインターフェイスを改良し、ツールバーやパネルの UI 要素の表示が大きくなり、視認性が向上しています。

パネルデザインは 100 以上変更し、以下を拡大しました。

- パネルの各種コントロールのサイズ
- フォントサイズ
- コントロール間の縦横の間隔

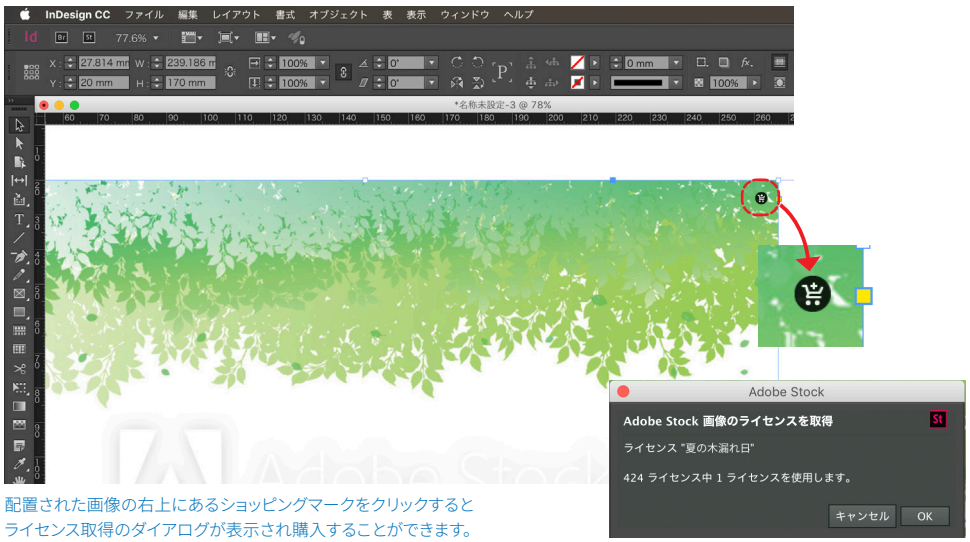


既存の画面（右）とアップデートされた画面（左）。アップデートすることで、コントロールやフォントなどのサイズが大きくなり、長時間作業した場合の目の疲れを軽減します。

Adobe Stock との連携、Creative Cloud Libraries の強化

ライブラリパネルでの Adobe Stock 画像の検索の際に、検索対象（写真やイラストなど）を選択できるようになりました。

また、ドキュメント上のプレビュー版画像を選択し、直接購入することも可能です。

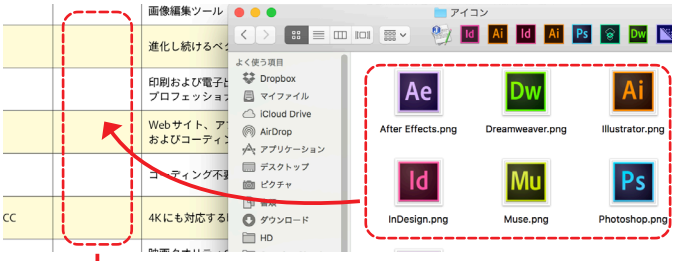


配置された画像の右上にあるショッピングマークをクリックするとライセンス取得のダイアログが表示され購入することができます。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

表内に画像を配置

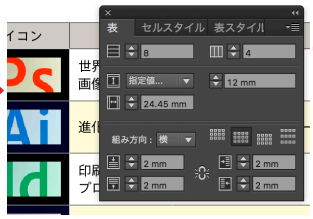
テキストとともにグラフィックスを表のセル内に直接追加、位置やトリミングの調整が行えます。



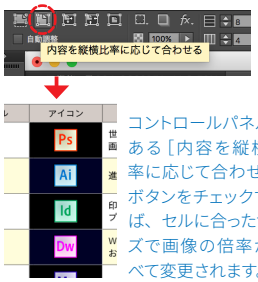
InDesignで表を作成し、画像をセル内に配置します。



セル内に画像100%の状態で配置されます。



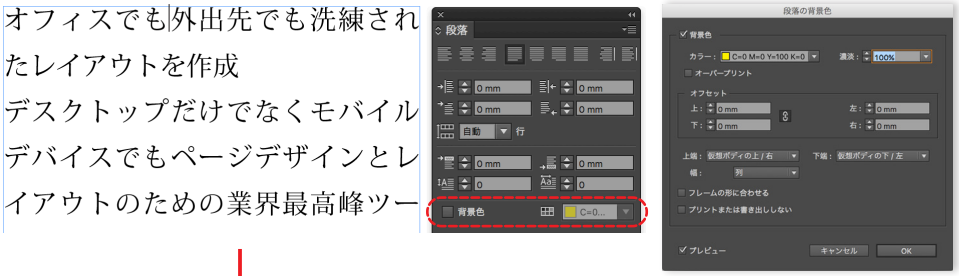
配置されたセルを選択すれば表パレットでマージンの設定もできます。

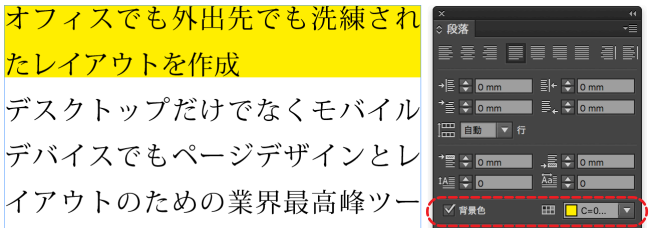


コントロールパネルにある［内容を縦横比率に応じて合わせる］ボタンをチェックすれば、セルに合ったサイズで画像の倍率がすべて変更されます。

段落の背景色

段落に対して背景色を設定することができます。





テキストを選択している状態で、段落パネルに追加された背景色をチェックすると、選択していた段落に対して背景色がつきます。
オフセットや濃淡などの設定は、サブメニューから段落の背景色を選択し設定することができます。

字形を簡単に変更する

異体字のあるテキストを、文字ツールで選択（１文字のみ）すると、テキストの下が青くハイライトされた状態で、異体字がポップアップで表示され、異体字を選択することができます。



異体字がるテキストを選択すると異体字のポップアップが表示。最大５つまでリストされる。



ポップアップされた異体字に異体字が表示されていない場合には▶からパレットを表示します。



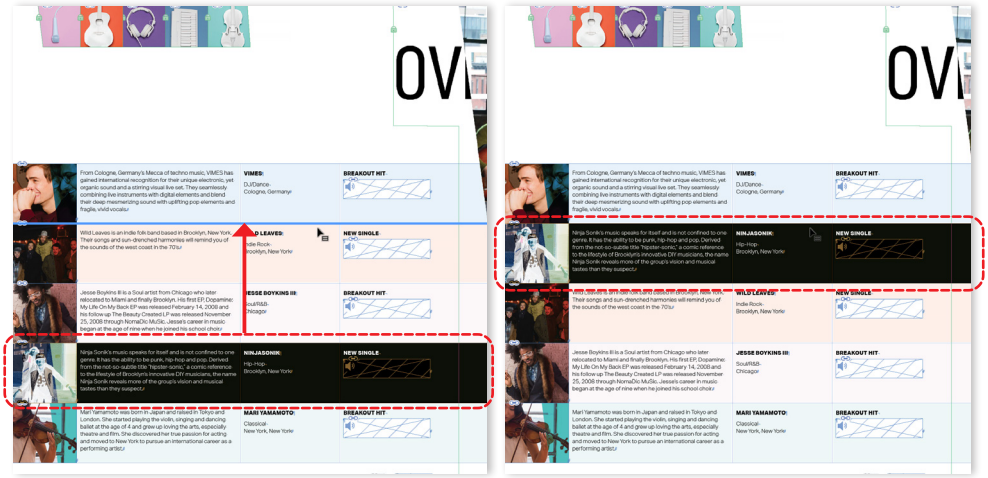
分数も異体字がある場合には置換されます。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

表の行と列を移動

表の順番を入れ替えるのに、再入力は不要です。

InDesign CC では、表の行または列を選択し、ドラッグ & ドロップで任意の場所に移動することが可能になりました。



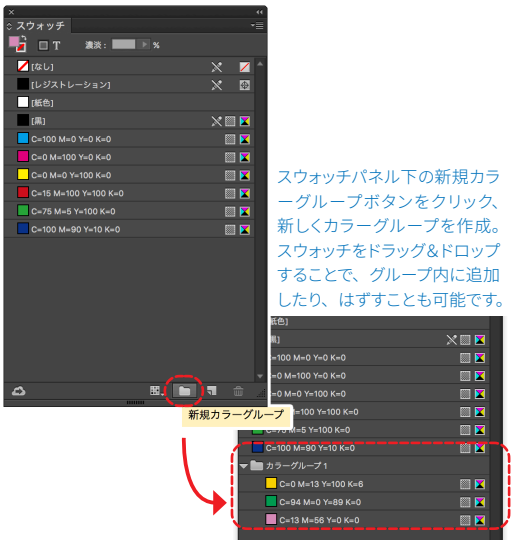
移動したい行または列を選択してドラッグするだけで任意の場所に移動することができます。セル単位ではなく、行か列単位での移動となります。

カラースウォッチ、カラーテーマ

段落スタイルフォルダーと同じように、カラースウォッチをグループ化して管理、整理できます。

また、新たに追加されたカラーテーマツールを使用して InDesign ドキュメントで選択した領域、画像またはオブジェクトからカラーテーマを抽出。

カラーテーマはレイアウトでそのまま使ったり、後で使えるようにスウォッチパネルに追加したりできるほか、Adobe Color に保存することもできます。



スウォッチパネル下の新規カラーグループボタンをクリック、新しくカラーグループを作成。スウォッチをドラッグ&ドロップすることで、グループ内に追加したり、はずすことも可能です。



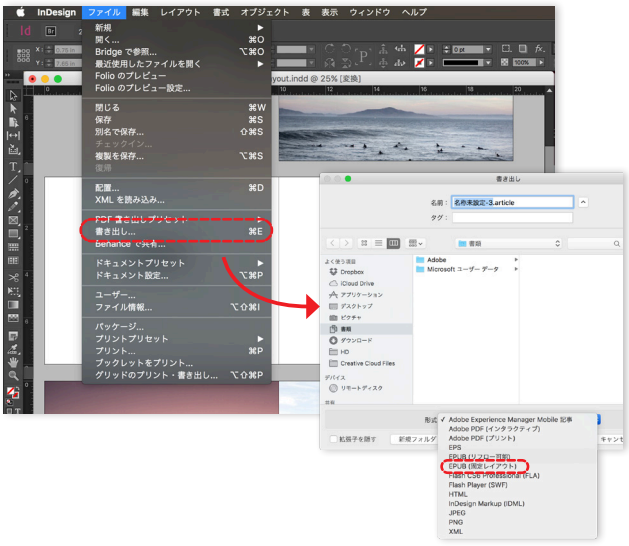
カラーテーマツールを選択し、オブジェクトの上に重ねてカラーをサンプリングしたい領域でクリックします。

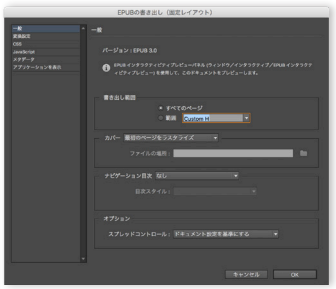
抽出したカラーはウォッチパネルに追加したりできるほか、Adobe Colorに保存することもできます。

固定レイアウトの EPUB

ライブテキストを使用してインタラクティブな EPUB 書籍を作成。イラスト、写真、オーディオ、ビデオ、アニメーションを豊富に取り入れた児童書、料理本、旅行ガイド、教科書などを作成できます。閲覧するデバイスの画面サイズにかかわらず、レイアウトとデザインは固定されます。

このほかにも、テキストの色、テーブル、先頭文字のスタイルがより正確に表現され、書き出しでのテキスト処理が一段とスムーズになります。オブジェクトのスタイルをタグにマッピングして書き出し、CSS を簡単に編集することもできます。





各項目を設定しOKボタンをクリックすると、EPUBが書き出されます。

また、ハイパーリンクと相互参照、合成フォント、割注テキストがEPUB（固定レイアウト）などもサポートされてます。

Adobe InDesign 2013 年 10 月リリース (ver.9)

64 ビットネイティブ対応

待望の 64 ビットネイティブサポートにより、システムの RAM 全体を活用することが可能になりました。

アプリケーションの起動からデザイン作業、プレビュー、印刷、PDF 書き出しに至るまで、あらゆるシーンにおいてスピードと安定性の大幅な向上を実感できます。



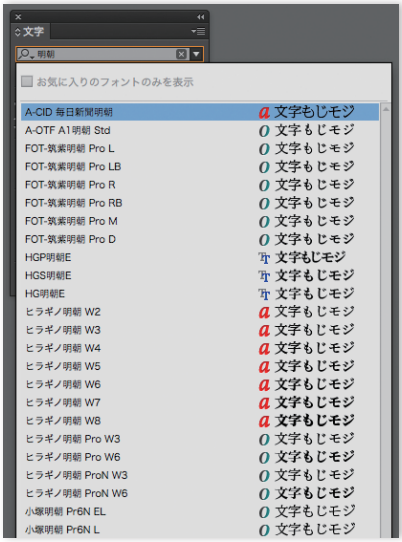
InDesign内部の全体的な改良により、スピーディかつスムーズな作業を実現。64ビットネイティブサポートで、システムのRAM全体を活用することが可能。印刷時にも、PDFやINXファイルの書き出し時にも、スピードと安定性の大幅な向上を実感できます。

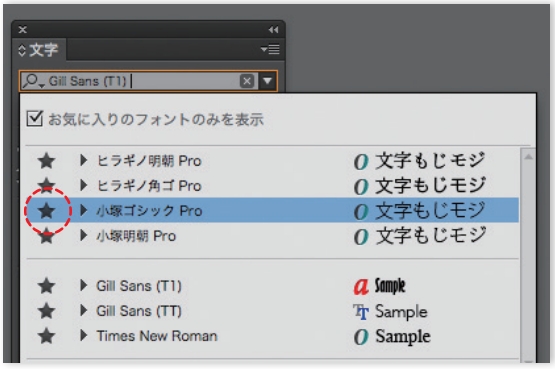
フォントの検索強化

2 バイトフォントを含む数多くのフォントの中から、最適なフォントをすばやく検索できます。

フォント名の一部を入力すると、そのキーワードに一致するフォントだけが表示されます。

また、頻繁に使用するフォントをお気に入り登録しておくことで、すばやくアクセスできます。





頻繁に使用するフォントはお気に入りのフォントを指定（☆印をチェック）し、それらのフォントだけを表示するか全体を表示するかを選択できます。

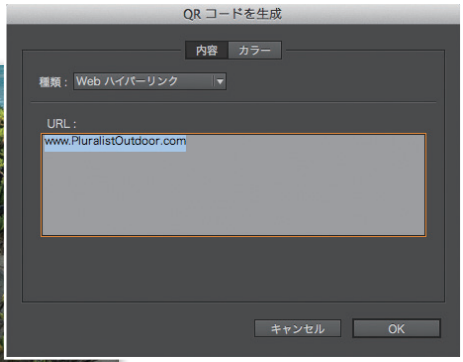
フォントパネルのフォント名に「ゴシック」、「明朝」、「italic」といったフォント名の一部、フォントファミリー名の一部を直接入力すると、そのキーワードにマッチするフォントが表示されます。もちろん2バイトフォントも検索可能です。Adobe Fonts（旧Typekitフォント）もフィルターできるようになりました。

QR コードの作成

InDesign 内で、ベクトルベースの QR コードを直接作成することができます。

作成した Q R コードはいつでも編集可能で、サイズを変更しても品質は劣化しないうえ、Illustrator などのアプリケーションにコピーして使用することも可能です。





くっきりと表示されるQRコードをInDesign内で作成できます。InDesignではベクターのQRコードが作成されるため、サイズを変更しても品質は劣化しないうえ、Illustratorのようなアプリケーションにコピーすることもできます。QRコードはいつでもInDesign内でそのまま編集可能です。

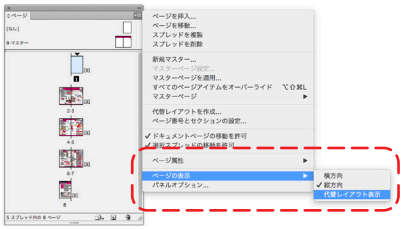
この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

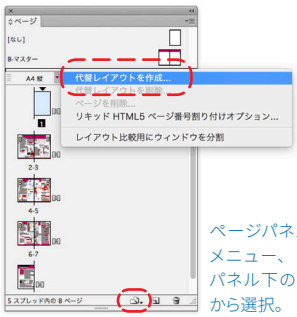
Adobe InDesign 2012 年 11 月リリース（ver.8, CS6）

代替レイアウト

既存のレイアウトから、異なるページサイズや方向のレイアウトを作成できます。

これを代替レイアウトと呼び、同一ドキュメント内に複数の代替レイアウトを保持できます。Digital Publishing Suite における強力なツールとして活用できるとともに、表紙のデザイン案を複数作成するようなケースでも役立ちます。





ページパネルのサブメニュー、もしくはパネル下のメニューから選択。



変更したいサイズをページサイズで選択。オプションで、オリジナルをそのまま代替するか、拡大するかなどを選択できる。



［代替レイアウトを作成］コマンドを実行すると、元のソースページから、異なるページサイズのレイアウトを作成できます。新しく作成されるレイアウトのオブジェクトは、元のレイアウトのリンクオブジェクトとして管理できるだけでなく、リキッドレイアウトをはじめとする新しい機能を使って、新しいページにフィットするよう位置やサイズを調整できます。

EPUB 書き出し

画像等のオブジェクトに対してフロートの設定が可能です。これにより、EPUB に書き出した際に回り込みが実現できます。

また、バージョンを指定しての EPUB 書き出しや、JavaScript の追加等、これまで以上に書き出しの機能、および精度が向上しています。



［オブジェクト書き出しオプション］の機能が強化され、オブジェクトにフロート（float）の指定が可能になりました。これにより、EPUBを書き出した際に回り込みを再現できます。なお、フロートさせたオブジェクトへのマージン（margin）の設定は、［回り込み］パネルから指定できます。



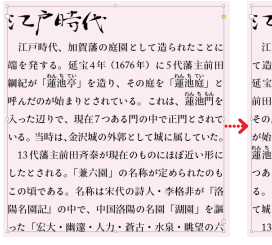
InDesignから書き出したEPUBファイルをAdobe Digital Editionsのプレビュー版で表示させたもの。縦書きはもちろん、ルビや圏点、縦中横をはじめ、画像への回り込みも再現しています。

テキストフレーム設定

テキストフレーム設定の機能が強化され、［段組］での［固定幅］や［可変幅］の設定が可能になりました。

また、［自動サイズ調整］タブが追加され、テキストの内容に応じて自動的に可変するテキストフレームの設定ができます。

これまで以上に高度なテキストフレームのハンドリングが実現しました。





［テキストフレーム設定］では、［段組］に［固定幅］や［可変幅］の設定が可能になりました。例えば、［段組］を［可変幅］に選択すると［最大値］の設定が可能となります。

テキストフレームのサイズを変更すると、段幅がこの［最大値］を超えると自動的に2段組になります。



文字を入力すると自動的にフレームが横に広がる。



［自動サイズ調整］タブが追加され、テキストの内容（量）に応じて自動的にテキストフレームのサイズを変更させることが可能になりました。

この情報は、2026 年 11 月時点のものです。内容に関しては予告なく変更される場合がございますので、あらかじめご了承ください。

Adobe, the Adobe logo, and Adobe Real-Time Customer Data Platform are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries.
All other trademarks are the property of their respective owners.
© 2026 Adobe. All rights reserved.